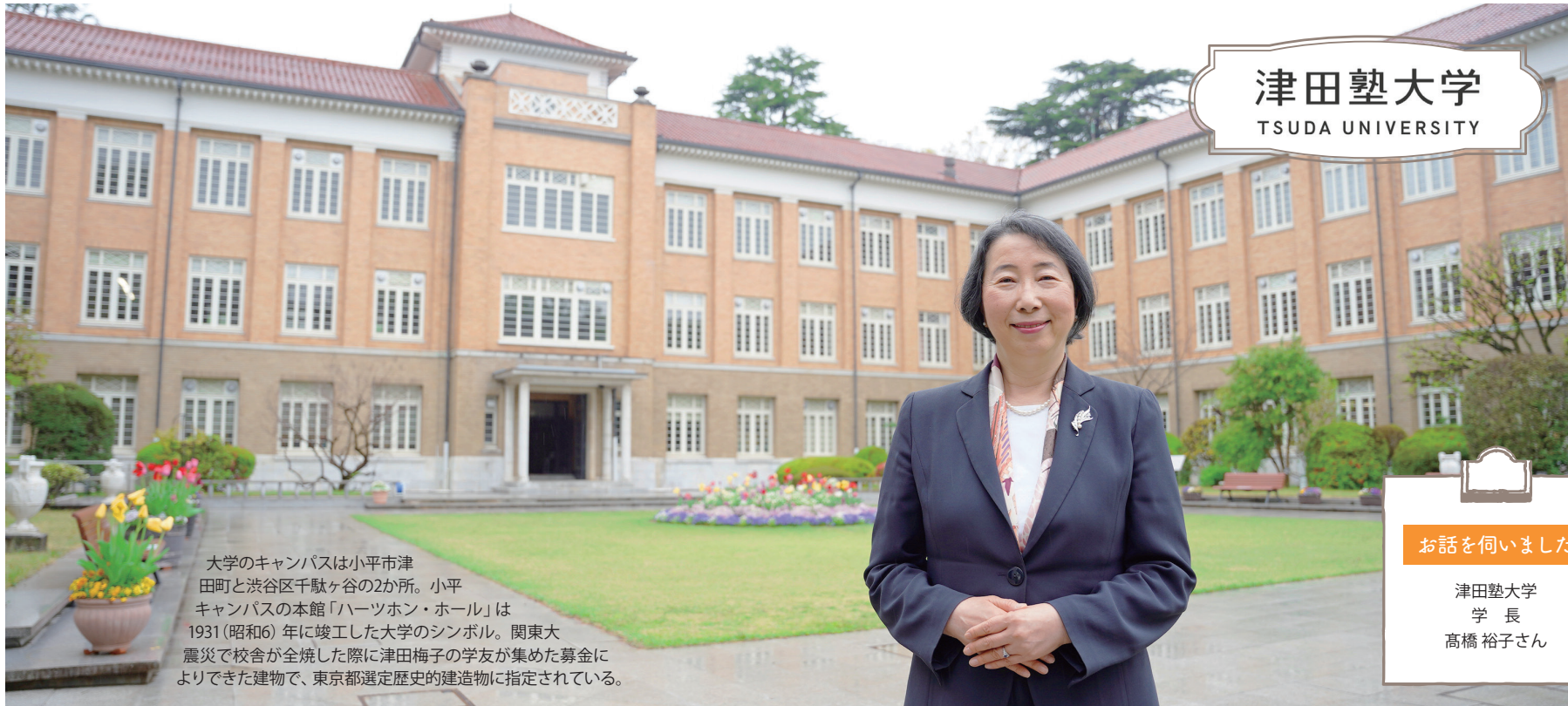


津田塾大学
TSUDA UNIVERSITY

お話を伺いました

津田塾大学
学 長
高橋 裕子さん

大学のキャンパスは小平市津田町と渋谷区千駄ヶ谷の2か所。小平キャンパスの本館「ハーツホン・ホール」は1931(昭和6)年に竣工した大学のシンボル。関東大震災で校舎が全焼した際に津田梅子の学友が集めた募金によりできた建物で、東京都選定歴史的建造物に指定されている。

女性たちが自ら
切り拓いた教育の道

日本で最初の女子高等教育機関である官立の東京女子師範学校(現・お茶の水女子大学)の前身)が創設されたのは1875(明治8)年。その4年前の1871(明治4)年に最初の官費女子留学生5人がアメリカに派遣されました。その1人が、津田塾大学の創立者である津田梅子です。2度のアメリカ留学を経た津田は、1900(明治33)年に津田塾大学の前身である女子英学塾を創設しました。今年で122年目を迎える大学の道のりについて、学長である高橋裕子さんに伺いました。

「アメリカで学んだ津田梅子は、広い視野を持った女性を育成するためのリベラルアーツ教育が日本にも必要だと考え、女子英学塾を立ち上げました。また、創設に先立ち同胞の女性が留学するための奨学金制度をつくり、自分と同じ志を持つ女性の支援にも力を入れていました。そうして育った後継者や支援者たちのおかげで、本学は時代の変動期を乗り越え今日に至っています」

女子英学塾は少人数教育と高度な英語教育を軸にオールラウンドな女性を育成する私塾となり、この建学の精神は今日に受け継がれています。また第二次世界大戦時には、敵性語となった英語教育の縮小を余儀なくされ、学校存続のための選択として数学、物理化学を学ぶ理科が創設されました。これは今日の津田塾大学数学科、情報科学科へと発展し、様々な分野で役立つ数学的思考力や応用力を養い、グローバルな情報社会において女性が活躍するための重要な学びの場となっています。

女性をエンパワーし
社会の変革を担う人材を
育成する学び舎

現在の日本の教育について高橋学長は、「風景を変えていく」ことを目指していると言います。

「日本では、小学校・中学校・高校・大学と教育の課程が進みますが、その学校のトップである校長や学長のほとんどが男性です(※)。すなわち、多くの人が子どもの頃から見てきたのは、男性がリーダーである風景な

のです。日本人の多くはその状況に慣れていて違和感を感じていませんが、それ自体を変えていかないといけないと思っています」

今を生きる女性に
必要な学び

津田塾大学では定評のある英語教育に加え、「データサイエンス・リテ

女子英学塾
開校当時の津田新5000円札の顔！
津田梅子の功績

1 明治時代に女性の研究者に

6歳からの約11年間をアメリカで過ごした津田梅子。アメリカ文化のなかで初等・中等教育を受け帰国後、再びアメリカに留学します。プリンマー大学で生物学を専攻した津田が1891(明治24)年に共同研究で執筆した論文はイギリスの学術雑誌に発表されました。

2 女子留学生のための奨学金制度を設立

2度目の渡米中に、自分に続く日本の女性のための奨学金制度(「日本婦人米国奨学金」委員会)を設立し、ファンドレイジング*を展開。1890年代から1970年代までに25人の女性をアメリカに送り出しました。津田の後継者となった星野あいや恵泉女学園の創設者である河井道などが、この奨学金で留学しています。

3 個性を大事にする女性のための私塾を創設

高い専門性と豊かな教養を身につけたオールラウンドな女性の育成を目指し、あふれる情熱と使命感のもと女子英学塾を創設。生徒一人ひとりの個性に合った指導や教育を行い、少人数教育を推進しました。

※活動のための資金を個人、法人、政府などから集めること

ラシープログラム」に力を入れていきます。文系・理系に関わらず、数理やデータ、AIなどを適切に理解し活用する能力を身につけることの重要性を、高橋学長は感じています。さらに、女性に特化した学びの場の意義についてもお聞きしました。

「現代社会においても女性にはマージナル(周縁)などところに置かれていますが、そのなかで女子大学での4年間は、常に女性を中心に置かれ、変革を担える存在なのだということを伝えられます。自分の人生のキャリアを模索しはじめる時期に、女性にフォーカスされた学びの場で、女性に期待をかけ、その力を信じ、最大限のポテンシャルを引き出して育成するのが女子大学です。それこそが女子大学の意義だと思います」

今の言葉でいえばジェンダー平等こそが社会の発展につながるという信念のもとに、女性の学びの場という形で先人たちがつないできたバトンが、今日に届いています。このバトンを絶やさず次世代へとつないでいくのが、現代を生きる私たちの使命です。

※日本の大学学長の女性比率は13～14%程度

女性研究者のキャリアと次世代を担う若い女性を支援する
津田塾大学 女性研究者支援センター

平成20年度文部科学省科学技術振興調整費の女性研究者支援モデル育成事業である「世代連携・理文融合による女性研究者支援」プログラムを推進するため、2008(平成20)年に女性研究者支援センターが設置されました。女性研究者を積極的に支援しつつ、世代連携と理文融合を図りながら次世代研究者を育成しています。

- 研究リーダーの育成
女性研究者を代表としたプロジェクトの支援や若手研究者の研究スタートアップ支援など
- 次世代の育成
学部生や大学院生の進路に関するメンター相談受付など
- セミナー/シンポジウム/交流会など
研究力アップやマネジメントスキル向上を目指した企画の実施

